



©Yuki Asada

蜘蛛の巣が広げる人々の未来

カラフルな木綿の糸を用いたレースの編み物「ニヤンドゥティ」。パラグアイの先住民グアラニーの言葉で「蜘蛛の巣」を意味するニヤンドゥティは、木枠に張った布に刺しゅうしてのりで固めた後、刺しゅう部分を切り取ったもの。壁掛けやテーブルクロス、ドレスなど、さまざまな用途がある同国伝統の手工芸品だ。完成まで1週間から数カ月もかかるほど手が込んでいるものもあるが、仕入れ業者に安く買われることも多く、作り手が減少し、深刻な後継者不足に陥っている。

このニヤンドゥティを農村の女性から適正価格で買い取って日本で販売し、その収益などで現地の教育支援を行っているのが、「(特活)ミタイ・ミタクニヤイ子ども基金」(以下、ミタイ基金)だ。1995

年の設立以来、農村部に1つの幼稚園と3つの小学校を建設した。「もう昔の私ではない」——地域にできた学校の成人クラスで学んだ女性の言葉には、農村部に根強く残るマクスモ(男性優位)思想を変化させる可能性が見て取れる。

ミタイ基金には約20人の大学生が活躍する学生部がある。彼らはニヤンドゥティの買い付けや販売の他、学校建設にも汗を流す。「私たちの活動が子どもたちの未来を広げるかもしれないと思うとワクワクする」と学生部の高井里菜さん。広報担当の齋藤誠仁さんは「フェアトレードを通じて作り手の暮らしを守り、伝統工芸品ニヤンドゥティという文化を残したい」と話す。今後は首都のスラムでの支援なども計画しているようだ。



刺しゅうの上からキャッサバのでんぷんを塗布したところ。これを乾燥させて刺しゅう部分を切り取るとニヤンドゥティが完成する

- ★ パラグアイのニヤンドゥティを1人にプレゼント！
→詳細は38ページへ
- ★ 商品は横浜国立大学の大学祭やグローバルフェスタJAPAN、パラグアイフェスティバルに出店するミタイ基金ブース、ミタイ基金と連携するショップなどで購入できる他、メールでの購入問い合わせにも対応しています。mitai.jk@gmail.com



パラグアイ